

児童発達支援又は放課後等デイサービス事業に係る自己評価結果公表用

(別添様式2)

公表日: 2020年 2月 18日

事業所名: 伊丹市立児童発達支援センター

サービス種類: 児童発達支援

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
環境・体制整備	1 利用定員に応じた指導訓練室等スペースの十分な確保	<ul style="list-style-type: none"> ・立地条件上、十分な広さの確保は難しいが、伸び伸びと遊べるように、保育室や遊戯室の環境設定、廊下などのスペースの活用、遊具の共有など職員間で話し合っている。 ・バギーや歩行器での移動時には、声を掛けあうなど危険のないよう細心の注意をはらっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・はい(114)・どちらとも(2)・いいえ(1)・わからない(1) ・全体的に狭い。床面積が少なすぎる。もう少し大きく動けるスペースがほしい。 ・園庭を広くしてほしい。4.5歳児が走って遊ぶには狭い。 ・バギーのすれ違い時など狭くて子どもに危険が多い。 ・確保されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども一人一人が満足のようなあそびの提供ができるように、センター外に出かけるなど戸外活動も取り入れていく。 ・日頃より環境整理を行うなどし、安全確保に努める。 ・各クラスの活動時間が重ならないよう、また各階のスペースも有効活用できるように、職員間での連携を心掛ける。
	2 職員の適切な配置	<ul style="list-style-type: none"> ・基準内の適正な職員配置を実施している。 ・センター全体で利用児の人数を把握し、保育士が流動的に動けるような体制をとっている。 ・単独通所時は、担当者だけでなく全職員で関わるようにしている。 ・職員の研修会への参加を促している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・はい(101)・どちらとも(9)・いいえ(1)・わからない(7) ・人数が増えてくるとあと2人ぐらい職員を増やしてもよいかと思われる。 ・介助の職員が少ない。 ・他職種のスタッフを増やしてほしい。 ・発達障害について詳しく勉強されていたり知識が豊富とは、あまり感じない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、積極的な研修への参加を心掛け、スキルアップに努める。 ・引き続き、他職種とも連携し子どもへの支援方法の検討を行い、きめ細やかな療育が提供できるよう努める。
	3 本人にわかりやすい構造、バリアフリー化、情報伝達等に配慮した環境など障害の特性に応じた設備整備	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども一人一人の特性に合わせた環境設定や対応を心掛けている。 ・動線が複雑にならないように考え、流れを明確に伝えて保護者に協力していただいている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・はい(105)・どちらとも(5)・いいえ(0)・わからない(8) ・沢山のおもちゃがありすぎて、落ち着きがなくなっている気がする。 ・上下階への移動が多く落ち着いて過ごせない。 ・バギーでの手洗い場が不便。 ・細かい点での工夫はその都度必要だが、どの子どもにとってもわかりやすい環境や配慮はされていると感じる。分りやすくして良い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、一人一人の特性に合わせた環境設定や情報提供を行っていき、支援方法や目的など丁寧な説明を心掛ける。 ・フロアや場所を変えての活動は、事前に連絡するよう努める。 ・子どもの特性に合わせた介助方法や道具などの活用を検討していく。
	4 清潔で、心地よく過ごせ、子ども達の活動に合わせた生活空間の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日の清掃、定期的な園庭整備、年間の定期清掃を行っている。 ・歩行器や座位保持椅子などの収納スペースが少なく、廊下に置いている。 ・毎月定期的に安全点検を実施し、整備を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・はい(108)・どちらとも(7)・いいえ(1)・わからない(2) ・いろいろな物や器具など、廊下や外に置いている為、危険に感じることがある。 ・遊具のカバーに足が引っ掛かりそうで危険、高さも心配。 ・掃除ができていない箇所がある。 ・戸外で遊ぶ時に裸足の場合、石などが少し気になった。 ・トイレの数が少なめである。 	<ul style="list-style-type: none"> ・衛生面や環境整備に一層配慮し、心地よく過ごせる空間を心掛ける。 ・裸足での活動の際は、危険のないよう事前に点検を行うようにする。 ・トイレを使用する際は、少人数で利用できるように時間をずらすなどの配慮を行う。
業務改善	1 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)への職員の積極的な参画	<ul style="list-style-type: none"> ・職員会議、保育運営会議などで、日々の業務や行事などの計画・実行・振り返りを行い、職員間で共有している。 ・保育内容や行事、さまざまな業務に関しては、年度毎に事業計画及び事業報告を作成し、職員間での共通理解を図っている。 		<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、実施していく。
	2 第三者による外部評価を活用した業務改善の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・実施していない。 		<ul style="list-style-type: none"> ・他機関のモデルなどを参考にしながら、実施の有無や方法について検討していく。
	3 職員の資質の向上を行うための研修機会の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・センター内で定期的に職員研修を実施している。 ・部会への出席、外部研修への参加や他施設への見学を行っている。 ・その他の外部研修案内を職員全体に周知し、自主的に参加できるよう情報提供を行っている。 		<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、実施していく。
適切な支援の提供	1 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の作成	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の思いを聞き取り、子どもの姿を捉えることで、子どもが求める願いを目標にし、計画を作成している。 ・他職種の意見も参考にし、職員間での共通理解を図るために個別支援計画会議を実施して計画を作成している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・はい(109)・どちらとも(5)・いいえ(0)・わからない(2)・無回答(2) ・子どもに合わせた支援計画だと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き実施し、計画について丁寧に説明していく。
	2 子どもの状況に応じ、かつ個別活動と集団活動を適宜組み合わせた児童発達支援又は放課後等デイサービス計画の作成	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの特性に合わせて課題や目標を設定し、集団の規模や保育形態を検討して保育を行っている。 		<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、実施していく。
	3 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画における子どもの支援に必要な項目の設定及び具体的な支援内容の記載	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもにとって生活やあそびのなかで取り組みやすい項目を設定し、具体的な手立てや支援方法を記入している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・はい(106)・どちらとも(5)・いいえ(0)・わからない(6)・無回答(1) ・具体的に設定されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き実施し、丁寧に説明していく。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
適切な支援の提供(続き)	4 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画に沿った適切な支援の実施	・毎日の生活やあそびの中で、一人一人が楽しく取り組めるように、特性に応じた環境設定や関わり方などを工夫している。	はい(97)・どちらとも(6)・いいえ(0)・わからない(13)・無回答(2) ・子ども同士が遊びの中で関わり合いやすい時間があればよいと思う。	・引き続き、実施していく。 ・友だちと過ごす楽しさが感じられるような時間や雰囲気づくりに努める。
	5 チーム全体での活動プログラムの立案	・年度当初には年間行事を立て説明を行い、それに基づき保育を行っている。 ・活動予定を事前に話し合いで決め、役割分担などの打ち合わせを心掛けている。 ・他職種との会議を行い、参考にして活動内容を検討している。		・引き続き、実施していく。
	6 平日、休日、長期休暇に応じたきめ細やかな支援	・療育時間外の電話や来所での相談に対応している。 ・きょうだいが夏休みの期間でも、保護者同伴の療育が提供できるよう、きょうだい保育を実施している。 ・幼稚園と並行利用している利用児の長期休暇中の利用を柔軟に対応している。		・引き続き、実施していく。
	7 活動プログラムが固定化しないような工夫の実施	・スキルアップのために他施設見学や研修会への参加を行い、職員間で情報共有をしている。 ・クラス毎に話し合いを行い、月案や週案を立てて活動内容の工夫をしている。	はい(100)・どちらとも(10)・いいえ(0)・わからない(7)・無回答(1) ・保護者の思いをくみ取ってくれるなどして工夫されている。 ・同じあそびでも遊び方を変えている。 ・色々なことをしてくれる。 ・様々なあそびを計画してくれて楽しんでいる。	・引き続き、実施していく。 ・知識を高め、職員間で意見を出し合いながら活動内容の工夫に努める。
	8 支援開始前における職員間でその日の支援内容や役割分担についての確認の徹底	・毎日の朝礼で、当日利用予定の子どもの情報共有を行い、保育内容や人員配置の確認、保育準備、食事介助の確認などを行っている。		・引き続き、実施していく。
	9 支援終了後における職員間でその日行われた支援の振り返りと気付いた点などの情報の共有化	・療育終了後に、その日の子どもの様子などを記録、報告し合い、次の支援に生かせるようにしている。		・引き続き、実施していく。
	10 日々の支援に関しての正確な記録の徹底や、支援の検証・改善の継続実施	・日誌、保育記録の記入を行っている。 ・行事後は反省を出し合い、記録に残している。 ・定例会議で子どもの情報共有や支援方法の検討などを行っている。		・引き続き、実施していく。
11 定期的なモニタリングの実施及び児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の見直し	・半年に1回計画の見直しを行っている。 ・保護者との面談で子どもの様子や変化を確認したり、保護者の思いを聴き取り、職員間で個別支援会議を実施し、計画の見直しを行っている。		・引き続き、実施していく。	

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
関係機関との連携	1	子どもの状況に精通した最もふさわしい者による障害児相談支援事業所のサービス担当者会議への参画	・通所部門の管理責任者やグループリーダー、担当などが、必要に応じて相談部門との会議や相談員からの聞き取りを行っている。		・必要に応じて、実施していく。
	2	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援の実施	・医療的ケアの実施要項を作成し、主治医の指示書をもとに保護者より依頼を受け、診療所医師の指示のもと医療行為を行っている。 ・医療コーディネーターやセンター診療所スタッフと連携し、療育を行っている。 ・並行して利用している他の事業所からの見学など、必要に応じ連携している。 ・就学前児は、就学先の学校との引継ぎや、就学後の保育所等訪問など実施している。		・引き続き、各関係機関との連携を密にし、支援を実施していく。
	3	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制の整備	・主治医の指示書をもとに保護者より依頼を受け、医療行為を行っている。 ・センター診療所と常に連携し、療育を行っている。 ・医療コーディネーターやセンター診療所を通して、主治医などと連携している。 ・近隣の医療機関に緊急時の受入れ協力を依頼し、対応できるようにしている。		・引き続き、利用者のニーズに合わせ、受け入れ体制の整備や医療機関との連携に努める。
	4	児童発達支援事業所からの円滑な移行支援のため、保育所や認定こども園、幼稚園、小学校、特別支援学校(小学部)等との間での支援内容等の十分な情報共有	・移行先からの子どもの様子の事前見学、引継書を用いたの引継ぎ、サポートファイルの作成などを行っている。 ・移行後の保育所等訪問支援事業を実施している。		・引き続き、利用者のニーズに合わせ、より丁寧な情報共有や連携に努める。
	5	放課後等デイサービスからの円滑な移行支援のため、学校を卒業後、障害福祉サービス事業所等に対するそれまでの支援内容等についての十分な情報提供			
	6	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携や、専門機関での研修の受講の促進	・他機関の実施する研修への参加やケースを通じた連携を行っている。		・引き続き、実施していく。
	7	児童等発達支援の場合の保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、放課後等デイサービスの場合の放課後児童クラブや児童館との交流など、障害のない子どもと活動する機会の提供	・つつじは、5歳児について年度後半に月1回、居住地域の幼稚園での地域体験の機会を設けている。 ・きぼうは、年2回5歳児の居住地域の幼稚園で地域体験を実施している。 ・地域のおそび場やプレ保育の情報提供を行い、利用を促して地域との交流ができるようにしている。	はい(34)・どちらとも(12)・いいえ(15)・わからない(53)・無回答(4) ・活動する機会がない。参加していないのでわからない。 ・年に数回のため、予定が合わないとう交流ができない。 ・年長児の校区に交流に行けて良かった。医療的ケア児が同年代の児と交流する機会があり良かった。 ・5歳児以外の子どもたちも交流の機会は必要。	・引き続き、実施していく。 ・利用者のニーズに合わせて、地域のおそび場などの情報提供を行う。 ・利用形態に応じて対象年齢や頻度も検討し、交流の機会が持てるように計画していく。
	8	事業所の行事への地域住民の招待など地域に関わった事業の運営	・見学などを随時受入れている。		・必要に応じて対応していく。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
保護者への説明責任・連携支援	1 支援の内容、利用者負担等についての丁寧な説明	<ul style="list-style-type: none"> ・利用開始時(契約時)に、説明をしている。 ・支援内容については、個々で懇談を実施し説明している。 ・説明後に変更などがあった場合は、手紙や個別での情報提供を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・はい(114)・どちらとも(4)・いいえ(0) ・毎月、支払いで窓口に行くのは負担。 ・進路選択にあたって、他クラスの支援内容やしくみがわからない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、丁寧な説明を心掛ける。 ・進路選択にあたっては、見学への同行を引き続き行う。また、交流の場を設けるなど、それぞれのクラスの活動にふれる機会をさらに持つようにする。
	2 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画を示しながらの支援内容の丁寧な説明	<ul style="list-style-type: none"> ・個別での懇談の時間を設け、計画書を提示し目標や支援内容についての説明を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・はい(113)・どちらとも(2)・いいえ(0)・わからない(2)・無回答(1) ・しっかり説明をしてくれる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、実施していく。
	3 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対するペアレント・トレーニング等の支援の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・親子通所療育の実施や懇談の中で、関わり方を具体的に伝えるなど保護者との情報共有や育児支援を行っている。 ・家族支援として、保護者教室や両親研修会、父親会を実施し、育児に必要な情報の提供、先輩保護者の話を聞く機会など設け、保護者支援を行っている。 ・他職種とも連携し、保護者からの相談に対応している。 ・狭義でのペアレント・トレーニングは、実施していない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・はい(79)・どちらとも(6)・いいえ(5)・わからない(27)・無回答(1) ・保育の様子を教えてくれるので育て方のヒントになる。 ・母対象だけでなく、父親や両親対象の研修会など幅広い支援が行われたてよい。 ・教えてもらったことを家ですると効果が出て、子どもとの接し方が変わった。 ・通ってすぐで機会がまだない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、保護者とのコミュニケーションを図り、他職種とも連携して家族支援に取り組んでいく。 ・利用者のニーズに合わせて、保護者研修会の内容を検討し企画していくようにする。
	4 子どもの発達状況や課題について、日頃から保護者との共通理解の徹底	<ul style="list-style-type: none"> ・親子通所の療育を実施し、保護者との情報共有や育児支援を行っている。 ・単独通所児は、連絡ノートでのやりとりや、電話連絡での情報共有を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・はい(107)・どちらとも(8)・いいえ(0)・わからない(3) ・毎回スタッフと話をし情報交換できてよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、実施していく。
	5 保護者からの子育ての悩み等に対する相談への適切な対応と必要な助言の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・親子通所や懇談の機会に、保護者の悩みに寄り添うよう心掛けている。 ・他職種とも情報共有を行い、連携して保護者からの相談に対応できるようにしている。 ・必要に応じて児童精神科医相談を案内し、より専門的なアドバイスを受ける機会を提供している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・はい(103)・どちらとも(7)・いいえ(2)・わからない(6) ・いつも質問に答えてくれる。親身になって助言してくれる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、実施していく。
	6 父母の会の活動の支援や、保護者会の開催による保護者同士の連携支援	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日通所のクラスは、保護者会や両親研修会、父親会の活動を通して、保護者間の連携が取りやすい機会を設けている。 ・保護者会や保護者教室開催時には親子分離保育を行い、保護者同士の交流や意見交換の機会を設けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・はい(65)・どちらとも(14)・いいえ(2)・わからない(35)・無回答(2) ・父親会は土曜日も行っている。 ・自分の性格もあり、他の保護者と話ができないので、機会があったらうれしい。 ・他の方と関わる余裕がない。まだない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、実施していく ・通所の形態に合わせ、保護者のニーズも取り入れながら、開催日時や内容を検討していく。
	7 子どもや保護者からの苦情に対する対応体制整備や、子どもや保護者に周知及び苦情があった場合の迅速かつ適切な対応	<ul style="list-style-type: none"> ・苦情対応について、契約時に説明している。 ・苦情や要望が上がった際には、迅速に対応するよう努め、職員にも周知し対応できるように心掛けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・はい(49)・どちらとも(11)・いいえ(1)・わからない(53)・無回答(4) ・質問には迅速で丁寧に対応してくれる。 ・苦情を聞いたことがない。まだしたことがない。 ・苦情がない現状を好ましく思っている。 ・対応に少し時間がかかるが、以前より透明化され過ぎやすくなった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、実施していく。 ・保護者との話し合いによって改善点が見つけられるよう努力する。また、保護者と連携できる体制やより良い関係づくりに努める。
	8 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・個別対応を心掛けている。 ・子ども一人一人の特性に合わせた関わりに取り組み、保護者に親子通所や懇談を通して伝えている。 ・室内に情報の掲示をしたりして、伝達できるようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・はい(101)・どちらとも(3)・いいえ(1)・わからない(11)・無回答(2) ・伝わりにくい特性を持っているため、意思の疎通は難しいと思っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、実施していく。 ・必要に応じて、個別に対応していく。
	9 定期的な会報等の発行、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報についての子どもや保護者への発信	<ul style="list-style-type: none"> ・年間の行事計画、毎月のくらすだよりや利用計画、行事についての手紙などを配布し情報提供を行っている。 ・遠足の行き先や行事の様子の写真などを掲示している。 ・一斉メール配信を利用し、緊急時に対応できるようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・はい(83)・どちらとも(6)・いいえ(17)・わからない(9)・無回答(3) ・月々のおたよりの他に、いろいろなイベントのお知らせが掲示してありわかりやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、実施していく。 ・ホームページの見直しを行っていく。
	10 個人情報の取扱いに対する十分な対応	<ul style="list-style-type: none"> ・鍵付き書庫に管理するなど、いただいた個人情報の取扱いには十分気を付けている。 ・書類作成、情報公開に際しても細心の注意を払うよう心掛けている。 ・毎年、市職員向け情報セキュリティ研修を全職員受けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・はい(65)・どちらとも(14)・いいえ(2)・わからない(35)・無回答(2) ・取り扱いについて、特に意識する機会がない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き実施し、個人情報を取り扱っているという認識を深め、職員間で徹底していく。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
非常時等の対応	1 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルの策定と、職員や保護者への周知徹底	<ul style="list-style-type: none"> ・避難経路を掲示している。 ・親子通所時は、定期的な避難訓練を通して対応方法などの共通理解を行っている。 ・様々な災害を想定し、マニュアルを見直していく必要がある。 ・職員間でのマニュアル周知は行っているが、保護者に対してマニュアル開示はできていない。 	<ul style="list-style-type: none"> はい(67)・どちらとも(14)・いいえ(3)・わからない(34) ・説明はされているが、実際あった場合対応できるか自信がない。 ・入口、玄関は受付から死角になるように思う。 ・災害時のマニュアルがあることをしらなかった。 ・災害時にどのような対応をして良いのかわからない。 ・バスに乗っている際、情報伝達が使えない時などの災害マニュアルを知りたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な災害を想定した訓練の計画を心掛け、実施していく。また、職員間でマニュアルの見直し、周知を行う。 ・保護者へのマニュアルの開示方法を検討する。 ・一斉メール配信を活用し、緊急時の連絡に迅速に対応していく。
	2 非常災害の発生に備えた、定期的に避難、救出その他必要な訓練の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・センター全体で年2回の避難訓練、水害を想定しての垂直避難訓練、職員対象に消火栓を使用するの消火訓練を実施。 ・単独通所のクラスでは、月1回の避難訓練を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> はい(72)・どちらとも(11)・いいえ(2)・わからない(31)・無回答(2) ・今のところ未経験。 ・年に一度しかなく、通所した人へのみの訓練で十分とは言えない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、実施していく。 ・通所形態に合わせて避難訓練の内容や頻度を検討し、避難方法の周知に努める。
	3 虐待を防止するための職員研修機会の確保等の適切な対応	<ul style="list-style-type: none"> ・市主催の虐待防止研修会に参加している。 ・全職員対象に人権研修を行っている。 ・専門的な研修会があれば参加している。 		<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き実施し、研修会への積極的な参加を促していく。
	4 やむを得ず身体拘束を行う場合における組織的な決定と、子どもや保護者に事前に十分に説明し、了解を得た上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画への記載	<ul style="list-style-type: none"> ・別紙で書類を作成、保護者説明を行い、同意を得て行っている。 		<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、実施していく。
	5 食物アレルギーのある子どもに対する医師の指示書に基づく適切な対応	<ul style="list-style-type: none"> ・給食開始やクッキングの際は、看護師や職員より聞き取りを行い、主治医からの情報や診断書を元に実施している。 ・献立作成時の食材の確認、除去食を先に調理し食材の混入を防ぐ、検査での確認などを行っている。 ・アレルギー児のトレーや名札を用意し、提供前の声出し確認をしている。下膳場所を別に設けたり、エプロンについた食べこぼしを落とし、足裏を拭いてから退室するようにしている。 		<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き個々への対応を行い、職員間での情報共有を行っていく。
	6 ヒヤリハット事例集の作成及び事業所内での共有の徹底	<ul style="list-style-type: none"> ・センター内リスク会議を月1回実施。また、市内保育施設のリスク会議への出席を行い、リスクの報告、検証を行い共有している。 ・ヒヤリハット、アクシデント報告書の記入、報告を通して情報共有を行っている。 ・前月や前年度同月の事例を参考に、次月に予測できるリスクを職員会議で確認し、職員一人一人が意識して未然に防げるよう努めている。 		<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、実施していく。